

令和6年度 自己評価書

令和7年3月6日
真庭市立美甘こども園
園長 吉原 幹枝

1. 美甘こども園の教育保育目標

児童福祉法に基づき保育を必要とするすべての子どもに対し、安心・安全な生活の場を保証し、保護者と共に子どもの最善の利益を考慮した保育を行う。

〈保育方針〉

「未来は遊びの中に～生きる力は遊んで学ぶ～」

〈教育・保育目標〉

- いきいきと楽しむこども
- どんどん考えるこども
- ぽかぽか温かいこども

2. 本年度の重点目標

地域とのつながりを大切にし、いきいきと遊ぶ中で、「知りたい」「やってみたい」を増やし、考えたり、試したりできる環境づくりをする。

『子どもの「つぶやきから」探検が始まる!』 このことを大切にしていきたい。

- ・もっとやってみたい!と心を動かし主体的に遊ぶことができる環境作り
- ・思考力、探究心を高められる環境作り
- ・こ小の連携を図りながら、スムーズな就学
- ・安全安心の給食を提供すると共に食を通して豊かな心を育てる

3. 美甘こども園評価

評価指標	考 察	園総合 評価
教育課程・指導計画	園の重点目標などは、職員での話し合いをもち、育てたい事項を指導計画に入れて取り組んだ。また、振り返りを大切にすることで、保育の向上に努めた。	3
行事	季節毎に子ども達に経験させたいこと、感じて欲しいことなどを計画に取り入れて行った。年齢の幅が大きく活動が難しかった。	3
組織・運営	事務分掌に沿って、各々の職務を遂行した。職員数が少ないため、短期保育士を頼まないと園外保育や園内研修、会議をもつことが難しかった。もっと計画的に時間など調節をしながら行う必要がある。	3
学級経営	子ども一人一人の発達を理解する為、観察、保護者との連携、環境作りを職員間で共有し、協力しながら行った。	3
特別支援教育	集団での姿や個々の性質を観察したことを職員間で共有し、成長につながると思われる支援を丁寧に行った。	3
安全管理・保健指導	体調不良や感染症については、感染拡大にならないように対応をした。交通安全指導や避難訓練を毎月行ったり、午睡、食事や保育中の安全が確保できるようにした。 園舎の老朽化については、生活、日々に必要な修繕は行った。また、国道に面していることもあり、不審者に対しても園周辺の通行者等を気をつけて確認するようにした。	4
研修（資質向上）	職員としての研修や保育についての様々な研修に参加した。参加者だけで完結しないで、園内で共有することで、知識だけでなく意識の向上につながった。	4

情報提供・保護者・地域との連携	各クラスのお知らせ、全体へのお知らせは配布物だけではなく、お知らせボード等を使い、写真やお知らせを掲示するようにした。 年度途中からコドモンを導入し、活動記録を写真を添付して伝えるようにした。 月に1回、地域の人、場所、物など素材に触れ、地域に親しみをもつことができた。	3
小学校との接続・連携	スムーズな就学に向けて、交流をしたり、職員間で連携を取ることができた。 また、機会を作って訪問したりと小学校を身近な場所と捉えることができた。	3
子育て支援	送迎時の保護者との会話や懇談時の話から、保護者の子育ての思いに寄り添い、一緒に考えたりした。また、虐待等について研修を受けたり、子どもの怪我等にも敏感に対応をすることができた。	3
食育の推進（給食）	給食では、季節や行事など感じられるように盛り付けをしたり、園内で栽培した野菜を調理したり、家庭に持ち帰り保護者と一緒に調理したり、食べることで食育への啓蒙をした。また、栄養士に食事の様子を見てもらったり、食に関する話しをしてもらうことで、食育活動を進めることができた。	4
食事の提供（調理）	真庭市の給食衛生管理の手引きに沿って衛生管理を徹底しながら調理されたものを温度管理され車で配送してもらっている。異物混入などもなく、給食の提供ができた。	3

4. その他必要な評価

評価指標	考 察（保護者アンケートより）	保護者 評価
園生活について	園生活については、登降園時での話しや連絡帳、コドモン等での連絡により、活動の様子がよく分かるという評価だった。また、自然とのふれあいや地域交流、野菜栽培等の体験活動に	4

	<p>より、子ども達の五感に触れることからの成長にも評価をしていただいている。人数も少なく一人一人の子ども達の様子を把握することができるため、保護者からの問いにどの保育士も様子を伝えたり、相談を受けたりすることができたのではないかと捉える。</p> <p>給食の面については、勝山こども園からの配送による給食の提供となっているため、3歳未満児の午前のおやつ等については、栄養を考えられた物ではないことが懸念とされている。</p>	
--	--	--

5. 本年度の重点目標及び総合的な評価結果の考察等

令和6年度は5歳児2名、2歳児1名、1歳児3名と年齢幅が大きい園児構成であったため、就学前教育保育を中心に置きながら、3歳未満児の保育も丁寧に行った。

園児、職員共に少人数のため、子どもと保育者との距離は近く、子ども達のつぶやきから興味関心のあることは捉えやすかった。また、子ども達一人一人の関心事にも対応することで、情緒の安定を図り、保育者に見守られながら安心して過ごすことにつながった。

今年度、異年齢児でできる活動として、野菜作りに取り組んだ。畑の素地作りと片付けは、職員と年長児で行い、まびき、水やり、収穫には3歳未満児も参加した。一貫した活動を行う中で、興味関心に幅ができたり、野菜に対する思いが生まれたり、活動の中で生まれた疑問や保育者からの投げかけに対し、年長児は図鑑で調べたり、家庭に持ち帰って尋ねたりと自分達で考えたり、調べたことを試したりするようになってきたことは、今年度の大きな成果と捉えられる。また、年長児の姿を見て、3歳未満児の子ども達も同じようにしてみたいと思い、活動に参加できたこと、家庭と共に食育活動に取り組むことができたことが、子ども達の食に対する思いの変化につながったと考えられる。

また、昨年度から引き続き、「美甘探検隊」と称して美甘地域の様々な人、場所、物と触れあう活動を行った。全員で行動することも多かったが活動内容によっては、年長児のみが行ったり、木を使った物作りは保護者の方にも一緒に参加してもらうことができた。前半は天候に恵まれず、なかなか出かけていくことが難しかったが、秋口からは園周辺の散策、お祭りごっこやハロウィンなどで地域に出向いて行ったり、「ありがとうの会」には、地域の方に来ていただき、子ども達と触れ合ってもらう機会を作り、美甘こども園を身近に感じてもらうことができたのではないかとと思う。

少人数のこども園だからこそ、地域とのつながりをもちやすく、様々な形での交流ができたことで、地域の関心もさらに高まるのではないかと考えられる。

6. 評価結果を受けての具体的改善方策等

園内評価、保護者評価からも捉えられるように、子ども達が保育活動の中でしっかり遊んだ分、子ども達の力となっていることを受け、年度の早い時期から触れあい活動が行えるように、職員が地域の素材を知ることによって子どもの関心に沿った計画を立てていきたい。

また、給食については、配送による提供をしているので、午前のおやつや温かいままの提供は難しいが、工夫をして美味しく、楽しく食べることができるようしていきたい。

評価基準

評 価	基 準	
4	80%以上の達成度	十分達成されている
3	60%以上80%未満の達成度	概ね達成されている
2	40%以上60%未満の達成度	取り組まれているが、成果が十分でない
1	40%未満の達成度	取り組みが不十分である